



## 牧野 寛索（まきの かんさく）

明治 35 年（1902）1 月 6 日、溝延村（現河北町溝延）の素封家、牧野藤左衛門・つちの 7 男として誕生。溝延尋常小学校・村山農学校を卒業後、長兄の若木（おさなぎ）山原野（現東根市神町）開墾事業に従事しましたが、青雲の志を抑え切れず、18 歳頃親兄弟に無断で上京、苦学力行して弁護士を志しました。やがて、千葉出身植吉庄一郎元衆議院議員邸に書生として身を寄せ、中央大学法学部で学びます。在学中の昭和 5 年（1930）には司法試験に合格、翌 6 年大学卒業後、東京の吉祥寺に家庭を持ち、弁護士を開業。併せて中央大学の講師を務めました。

昭和 10 年代に入り、かねてからの大志であった政界入りを図り、政財界の要人、著名な識者と交わり、基盤固めをしました。戦時下の昭和 17 年（1942）、初めて衆議院選挙に立候補しましたが落選しました。翌 18 年には、山形県ゆかりの小磯国昭首相に随行して来県、郷里での時局講演会等に臨みました。

戦後昭和 21 年（1946）日本自由党に入党。同年 4 月戦後初の衆議院議員選挙に山形県より立候補し、西村山地方の大量得票でみごと当選を果たしました。以後当落を繰り返し、昭和 30 年代まで 4 回当選、9 年 5 ヶ月にわたり国政の第一線で活躍します。その間第一次、第二次吉田内閣首相秘書官、第三次吉田内閣法務政務次官などの要職に就きました。

戦後当初まで町西部北部地区民の宿願であった滝ノ沢川砂防治水事業についての陳情を受け、その実現に尽力するなど、郷土発展にも大きく貢献しました。